

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株>



<米国株>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2011/12/30	2012/8/31	2012/9/14	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,455.35	8,839.91	9,159.39	11,408.17	2010/4/5	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,217.56	13,090.84	13,593.37	13,653.24	2012/9/14	9,430.08	2009/10/2
円/ドル	円	76.91	78.39	78.39	94.99	2010/5/4	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

FRB (米連邦準備理事会) によるQE3 (量的緩和第3段) 導入を受けて大幅上昇

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+287.74円 (+3.24%)、TOPIXが+21.71ポイント (+2.95%)とFRBによるQE3導入を受けて大幅に上昇する展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、鉱業、非鉄金属、保険業など30業種が上昇する一方、ゴム製品、食料品、陸運業の3業種のみが下落しました。週明け10日の日本株市場は、先々週末に発表された米国雇用統計が市場予想を下回ったことを受けてFRBによるQE3導入への期待が高まる中、終日底堅く推移しました。翌11日は、ギリシャ政府が歳出削減案に難色を示したことを受けて欧州債務問題への懸念がやや高まったことなどから下落して始まった後、終日安値圏で推移しました。しかしその後週末にかけては、①中国の温家宝首相が必要に応じて追加景気刺激策を打ち出す用意があることを示唆したこと、②ドイツの連邦憲法裁判所がESM(欧州安定メカニズム)を認める判決を下したこと、③オランダ総選挙で与党が勝利したこと、④FRBがQE3の導入を決定したことなどから大幅に上昇する展開となり、日経平均は9,100円を回復しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
9月18日	Tue	日本	日銀、政策委員会・金融政策決定会合(19日まで)	
		米国	経常収支	4-6月 -1373億ドル
9月19日	Wed	米国	住宅着工件数(年換算)	8月 746千件
9月20日	Thu	日本	通関ベース貿易収支	8月 -5189億円
			全産業活動指数(前月比)	7月 0.2%
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	9月 -7.1
			景気先行指標総合指数	8月 0.4%
		中国	HSBC製造業PMI	9月 47.6
		欧州	ユーロ圏PMI(総合購買担当者景気指数)速報値	9月 46.3
9月21日	Fri	-	アップル「iPhone5」発売	
		日本	民主党代表選挙	

決算発表予定 他	米国	決算発表 : 9/18 フェデックス 9/20 オラクル
----------	----	------------------------------

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 日銀の政策次第で週後半は上下に大きく振れよう ~

今週の日本株市場は、先週にFRBがQE3実施を発表し、余剰資金が株式に流入するとの期待感が高まったことに加え、為替も円安基調で推移していることから、基本的には堅調な地合いが継続すると想定しています。ただ、18~19日に開催される日銀の金融政策決定会合において、欧米と歩調を合わせるような大規模な追加金融緩和を発表した場合や、逆に追加の金融緩和が見送られるようなことがあれば、週後半の株価は、為替とともに上下に大きく振れるとみています。一方、中国での反日デモは19日以降は鎮静化すると予想していますが、長期化するようであれば上値を抑える要因と考えています。経済指標では、米国で19日に発表される住宅着工件数、20日のフィラデルフィア連銀製造業景況指数、日本では20日の通関ベース貿易収支、中国では20日のHSBC製造業PMI、欧州では20日のユーロ圏PMIなどが重要と考えています。